

議 長 次に、受付番号第3号、田代実君の一般質問を許します。登壇願います。

2 番 田 代 ただいま議長より一般質問のお許しをいただきましたので、行わせていただきます。受付番号第3号、質問議員、第2番 田代実。件名、町民の支えとなる松田小学校建設のために。

要旨に入る前に、1点ミスプリがありますので、訂正をお願いしたいと思います。(2)です。(2)の2行目になります。1行目、「最優秀提案者からは、災害時における屋外設備として必要な」この後です。「下水道結式仮設トイレ」となっています。「下水道直結式仮設トイレ」に訂正をお願いしたいと思います。「下水道直結式仮設トイレ」ということでお願いいたします。

初めに、ちょっとこの質問するとき文字数に制限があったので、前段として思いを少し話させていただきます。松田小学校建設は単に義務教育施設の整備だけでなく、有事の際の防災拠点、また学童保育の場、そしてあらゆる面で地域に開放された町民の誇りとなる、レガシーとすべき施設であると考えます。このようなことから、一般質問をさせていただきます。

要旨。松田小学校建設事業は複数の業者からの企画提案の結果、6月4日に最優秀提案業者が選定されました。その建設企業体と今後の工事請負契約等の協定を取り交わし、工事ごとに議会承認を得て進めるとのことですので、次のことについてお伺いします。

(1) 令和2年6月までに実施設計を完了し、9月以降に建設工事に着手されますが、住民説明会で出された要望や意見はどのような手法で設計に反映されるのか。

(2) 最優秀提案業者からは災害時における屋外設備として必要な下水道直結式仮設トイレや貯留型仮設トイレ、かまどベンチなどの提案はありませんでした。防災拠点を兼ねた校舎建設という視点からどのように対応されるのか。

以上2点についてよろしく申し上げます。

町 長 それでは、田代議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

1点目の御質問にありました、住民説明会で出された要望の御意見はどのような手法で設計に反映されるのかについてお答えをさせていただきます。プロポーザル方式による事業者選定を行うに当たり、町として要求水準や要望など

をまとめる必要があるため、募集を行う前に近隣自治会の住民の方々を対象に、校舎建てかえに伴う意見交換会を平成29年8月と、平成30年11月、12月の計3回行いました。さらに、平成30年11月2日から23日までに募集をいたしましたパブリックコメントでは、6名、43件の町民の方々から御意見をいただきました。また、並行して松田小学校の先生方からも要望や提案をいただいております。平成30年12月5日、16日、20日の3日間、曜日や時間帯を変えて町民を対象とした校舎建てかえに伴う説明会を行っております。

この6回にわたる意見交換会並びに説明会及びパブリックコメントなどでいただいた御要望、御意見などを松田町立小学校建設事業の募集要項並びに仕様書に可能な範囲で反映させ、公募型プロポーザル方式として事業者の応募を行いました。その後、令和元年5月に提案事業者によるプレゼンテーション並びに質疑応答を公開で行い、最優秀提案者である事業者と6月28日に事業実施に係る基本協定書を締結したところでもございます。そして、8月7日に、今月8月7日に近隣住民の方々を対象に説明会を行い、建設事業者の紹介、事業の概要説明及び質疑応答を行い、改めて御要望、御意見をいただいたところでもございます。町民の方々からいただいたさまざまな御意見や御要望は、当然建設費用や設計関係に反映するなどもあり、全てを受け入れるということは難しいところもございますが、これまでいただいた御要望や御意見については今後建設委員会からも御意見をいただき、事業者とともに調整・研究しながら、可能な限り形として取り組んでまいりたいというふうに考えております。

2つ目の、防災拠点を兼ねた校舎建設という視点からの対応についてお答えをさせていただきます。御質問のとおり、建設される新しい小学校は防災及び災害時の機能を最大限に発揮されなければならないと考えております。現在の設計提案内容では、土砂災害対策として北西側に鉄筋コンクリート造の体育館棟を建設し、また、災害時に対応として、防災広場、また給水エリア、停電でも稼働できるエレベーター、60トン耐震性貯留槽の設置が盛り込まれております。また、炊き出しに使用できる家庭科調理室も運動…屋内運動場と同じフロアの2階に設置する予定でもございます。

御質問にあります下水道直結式仮設トイレについてでございますが、プレゼ

ンテーション時では説明がありませんでしたが、設計・提案の中では5基直流式で計画されており、下水本管との接続を予定しております。

また、かまどベンチにつきましては、現在の設計提案内容の中で地域の方々ワークショップでつくる提案をいただいておりますので、整備内容や手法をワークショップの中で事業者とともに研究しながら実施してまいることになります。また、そのほか防災の視点から必要と考えられるさまざまな内容は、建設委員会や事業者との打ち合わせなどにより、十分に検討していきたいというふうに考えております。

松田小学校の建設は、田代議員も御承知のとおり、発災時には学校が一定期間避難所としての役割を担うものであり、町民の安全・安心を念頭に、心の支えにもなるべきものと考えております。松田町の将来を担う子供たちの学び場であり、かつ町民の皆様方の防災に対する安全・安心の確保できる場として、また、生涯にわたる学び場として、人と人とをつなぐコミュニケーションの場として、松田町民の皆様方から愛される学校を皆様方とともに作り上げていきたいというふうに考えております。1700年を超える歴史ある寒田神社とともに、1800年の節目の際にもしっかりと残る松田小学校の建設に向けて尽力してまいりますので、引き続き御理解、御支援を賜りますよう、よろしく願いを申し上げます。以上です。

2 番 田 代 それでは、順次質問させていただきます。

まず1点、建設委員会、これを立ち上げてこれから調整していくということなんですけれども、委員の構成、2点目として立ち上げはいつごろか、3点目に公開の有無。要は傍聴できるのかと。この3点についてお伺いします。

教 育 課 長 建設委員会の構成につきましては、松田小学校のPTAを初め、保護者の方と、次に地域住民…地元自治会、また寒田神社の関係者、学校建設の有識者、ICTの有識者、こういった専門の方や学校の関係者、それと庁内幹部職員から構成を予定をしております。立ち上げ時期は9月に、中旬までには立ち上げ…上・中旬までに立ち上げまして…を予定しております。また、公開の有無につきましては、原則会議は公開ということでございますので、公開ということで予定をしてみたいと思っております。以上です。

2 番 田 代 委員の構成の中で有識者というふうな話がありました。委託している設計業者に対してある程度意見を、客観的な意見、専門的な意見を言える方が有識者とは思いますが、具体的にはどういう方が何名ぐらいという構成で見ているか。全体的に何名の委員のうち有識者が、どういった有識者が何人ぐらいいるのか、この辺についてお願いいたします。

教 育 課 長 全体が18名から19名、約20名のうち、有識者につきましては2から4くらいを考えております。具体的には、先ほど答弁いたしましたとおり、学校建設の有識者やICTの有識者、防災の関係者、こういった者を考えております。

2 番 田 代 今回の建設の調整役の主役となる組織はこの建設検討委員会だと思います。本当に機能するような形で行っていただきたいということで要望いたします。

1点目の、これが論点なんですけれども、以前から松田小学校の建設についていろんな意見を聞いていく中で、松田町の材木、松田山に、松田地区、寄地区、そこで伐期を迎えてるヒノキ、スギ、こういったものがたくさんあるはずだと。こういったものに対する活用についてどういうふう考えられるのか。よろしくをお願いします。

教 育 課 長 木材の供給量につきましては、業者に調査をいたしましたところ、業者からの提案どおりで行うと、松田町を含めた県産材の全部を使用しても松田小学校の建設…建設を供給できる分がないということがわかりました。そこで、木材調達の担保が難しいのであれば、流通材や集成材、こういったものを利用することで費用を抑えることができ、調達しやすくなるというふう考えております。

しかしながら、議員さんの御意見、御提案もありましたとおり、そのような中で松田産を含めた県産材の使用については今後の基本設計の中で考えていきたいと思っています。その使用の考え方につきましては、シンボリックになるもの…ところに、柱とかそういったものに設置をしたいというふう考えております。

2 番 田 代 私ども議会は平成28年11月1日から2日、木造校舎の先進事例の視察ということで、行政のほうの担当職員も若干名参加していただいて、長野県の本曾町、この三岳小学校を見学しました。その後同じく長野県川上村、川上中学校、

視察しました。この2カ所がね、すごいおもしろい事例なんですけれども、三岳小学校は日本有数のヒノキの産地。そのプライドを生かして、国有林だと聞いていますけれども、そこから太いヒノキを譲っていただいて、シンボリック的に利用したと。全面的には利用してないんですけども、ある程度目立つところに、おらが村の木だということで、小学校の中に設置しています。一方、川上村なんですけれども、こちらはカラマツの産地です。それで、村有林、村の林が32ヘクタールあります。ふんだんに材料が出ることから、構造材、外装、内装材、そういったものに利用したと。

ここで私、言いたいのは、今、担当課長から説明あったように、県産材使っても全然足りないんだよと。それはそれで理解できます。ただやはり、シンボルとなる材木、それについては松田町の材木を絶対使ってほしいと思いますが、この件に関しては、町長のほうがよろしいですかね。いかがですかね。

町長 ありがとうございます。シンボルというようなところでいきますと、使うべきじゃないかなというようには考えています。ただ、やっぱり木はやっぱり生きていますね、非常に扱いが、多分難しいところもあると思うんです。先ほど三岳小学校と川上村の学校の話もちょっと今いただきましたけれども、やっぱりどうしても適材適所といいましようかね、この材料はここがいい。特に、大壁でつくるのか真壁でつくるのか、そこはこの間の…この間ちょっと業者ともですね、これから詰めなきゃいけないという話をしました。要は見えないところにどれだけお金かけてしっかりやっていくかということに対して、やっぱり長くもつ建物になるかということもあります。そのために考えるとですね、木についてはとにかく適材適所の場所を、やはり町内・県内材にこだわることなくですね、使うべきところには使わせていただいて、シンボリックなものは町の中にシンボリックな木があるのであれば、もうぜひとも使っていきたいというふうに考えています。以上です。

2 番 田 代 松田町が管理している町有林、松田山の頂上、チェックメイトの南側に道路がずっと、町道あると思いますが、クラブハウスの多分南側あたりに位置すると思います。立山というところに町が管理している林があります。それは御存じですか。総務参事がこっくり、下げていただきましたので。これについて、

少し歴史を話させていただきます。

もとは学校林でした。それで、この中で体験したのは私と副町長ぐらいかな、それよりも上の先輩方かなと思っています。松田小学校を建てかえるために材木を小学校の学校林で育てています。育てていました。昭和の多分30年代に植林していると思います。これは聞いた話ですけども、PTAの役員が草刈りをやったという、そんな話を聞いています。我々小学生は小学校6年のときに遠足があります。それが外に行かないで、この松田山の立山に上がって枝打ちをやった記憶があります。

ですから、私の言いたいのは、先輩方が一生懸命つくった木。昭和42年に私は枝打ちやっていますけれど、そのときは背丈以上だったんですよね。ですから、恐らく60年ぐらいたっているのかな。と、伐期を迎えている。コストはかかるかもしれないけれども、まさに学校林。先ほどお話ししたように、川上中学校みたいにふんだんに使うのは無理です。ただ、根っことして松田町の伝統、今までの先輩方の努力も生かした中で、こういった木が、使える木があるかもしれない。この辺については調査をぜひかけていただきたいと思いますが、町長、いかがでしょうか。

町長 それはもう、もともと業者さんとも話してありますし。ただ、どこまでどういうふうに見えるかというのは本当調査次第なので、おっしゃられるとおりに、やはり内部の経済循環のことを考えればですね、もうおっしゃられるように、使えるものは本当にやっぱり、中でやっぱり経済循環もしなきゃいけないですし、やはり今のちょっと立山というところに対して、大体あの辺にあるというのを私も聞いたことがあります。行ったことはないんですけども。その木自体が、また先ほどもちょっと話あった植林だとか、そういったことなんかも必要になってくるかと思うので、使えるものはですね、きちっと調査をした後に、寄のほうからも言われていますから、その辺は調査した後に、使えるものはしっかりと使っていけるように指導していきたいと思っています。以上です。

2 番 田 代 明確な回答ありがとうございます。松田町の森林組合長にもお伺いしました。松田小学校建設のときに使えるようなシンボルとなる木が、そんな本数なくても構わないんですが、ありますかというお尋ねしたら、あると。ただし、今、

町長のお話のあったように、コストの面だとか、出しっぱですよね。出しがどのくらいかかるかという。そういうこともありますけれども、私、先ほど松田山の学校林というお話ししたんですけれども、松田町の町域の中で、コスト的にも何とかなると、若干割高だけど何とかなると、そういった木については本当に使っていて、これが松田町でとれた木、それで学校をつくったんだという一つの礎にさせていただけたらありがたいと思います。要望いたします。

次に2点目、防災拠点兼ねた校舎建設ということで、ここのくだりの中で、文章の中で下水道直結式仮設トイレ、それと貯留型仮設トイレ、この2つを併記しました。コスト的には直結式のトイレのほうがもう本当に安く済むと思います。貯留型仮設トイレ、これについては便槽みたいなのをどんと入れるわけですから、コストは余分にかかるのかなというふうに感じています。その中で過去の歴史から考えますと、3.11のときに結構下水道が被害を受けてしまって使えなかったと。一番みんな避難して困っているときに使えなかったという事実があります。特に、千葉県の、何ていう町か忘れましたが、液状化が激しくて、ディズニーランドの近くの市だと思うんですけど、液状化が激しくて浮き上がってしまって使えなかったと。そういうことを考えると、確かに直結式のほうがコスト的には楽です。でも、あわせてこの貯留型、貯留型仮設トイレ、これあたりについて、ある程度検討できないかと。県内の事例で見ますと、横浜市は結構この防災拠点としての学校に貯留型と、あとは直結型、併用しながら進めています。この辺について、町長、お考えいかがでしょうか。

町長 直結式は直結式で必要に応じて多分使えるものだというふうにも考えております。ただ、今言われているようないろんな災害をやっぱり想定しなきゃいけないものですから、滞留型というのは町でも一部持っているところもありますし、そういった分を、工事の中でどうするかということはちょっと置いて、必要な分に関してはですね、備品だとかそういったところの対応の中で防災のほうの担当と、その補助金をもらいながらですね、対応していくということは当然考えられることだと思っています。以上です。

2 番 田 代 今の直結式というお話出たんですけど、何基ぐらい直結式を今現在整備されるのか。また、防災かまどですか、この辺の数あたりは、もしわかる範囲でよ

ろしければ教えていただきたいんですけども。

町長 今、提案をいただいているのは今のところ5基ということで。かまどベンチについては今のところワークショップでいろいろ手づくりでやりましょうというふうな提案ですから、数とかはまだそこまで考えてないというか。必要などころに、基本的にはベンチになっているわけで、使うときにそれをひっくり返してかまどにしましょうということですから、やたらめったらということではないと思いますけどもね。そういったことを、全体のボリュームの中から適切に配置していくことになろうかと思います。以上です。

2 番 田 代 ありがとうございます。そうですね、先ほどお伺いしました。ありがとうございます。

ここでお話ししたいのは、予算、松田小学校の建設事業費が30億弱です。町始まって以来の大型プロジェクトです。この庁舎でも15億かかってないです。文化センター、寄の屋外体育館、もろもろなものを入れても、当時のお金で10億台というふうな認識があります。年数はたってますけれども、今回30億というのは非常に、30億弱というのは非常に大きい額で、町民の一部の方からすれば、そんな学校にかけて、我々の福祉どうなるのよという心配声もあります。ただ、今の財政状況から言うと、実質公債費比率あたりを見ても、ここまでは絶対やってくれるということで、私は前回賛成させていただきました。町長もこれからいろいろよじめて方向性を決めるんで大変だと思うんで、これは私の要望ということで聞いていただきたいと思います。

先ほどの長野県川上村は多種類の補助金をいろいろつぎ込んでいます。例えば学校の中に音楽堂をつくったりだとか、あとはソーラーシステムを活用したりとか、あと、町民の方に開放するために入り口を別々にした体育館、こういったものを整備するのに国の補助金の別メニュー、学校校舎以外の別メニュー、県の別メニュー、そういったものが使っています。私ね、ここの令和4年度に完成、5年の春にはまず完成する予定で運ぶと思うんですけども、その4年間で集中してやるって、やっぱり財源の問題あるんでね、少し延ばしてもいいのかなど。要は、今、直結式マンホールが5基、かまど、防災かまどについては検討するよということで、それが仮に5基、おのおの5基ずつついても、あそ

こにはやっぱりウン百人の方が集まる、1,000人になるかもしれないです、一時避難所として。そのときに5基のトイレでは絶対足りないと思います。やはり、子や孫に誇れるレガシーとしての施設を整備するのであれば、一番大事な、食べるのよりもやっぱりトイレが一番大きな問題だと思います。そういった面で、もう少しトイレの直結式、ふやせられないのかなど。または貯留型、仮設トイレのそのマンホールですか、そういったものできないかと。これについて、今回の国庫で難しければ、例えば昔、神奈川県防災対策支援事業補助金という制度がありました。今回ちょっとインターネットで調べるとその言葉が変わって、神奈川県地域防災対策戦略という冠の中で、神奈川県地震災害対策推進条例と、こういったものを定めて、地域災害対策の総合的な推進、自助・共助・公助の協働を行っていくというふうに出た中で、補助金も出るようです。これが校舎建設とはまたプラスアルファということで、校舎ができ上がった後も補完事業としてこういった補助金を使いながら、町の町税を極力少なくしながら、もう少し災害時の機能を拡大していく。今は本当にちょっとだけで、本当に災害が起こったらパニックだと思います。こういったこと考えられますので、そういった、今、補助金があるのかね、どのくらいの補助率なのかね、この辺について防災担当参事、お願いいたします。

参事兼総務課長 お答えさせていただきます。今の議員御質問のですね、補助金に関しては、基本的には避難施設ですとか、あとは地域自治会、そういったところでの災害に対する備品含めてですね、施設整備に対して補助金がございますけれども、一般的には市町村地域防災力強化事業費補助金ということで、神奈川県の補助金がございます。これについてはその品物によってその補助率が違う部分がありますけれども、一般的には3分の1の補助率…（「3分の…」の声あり）3分の1です。

2 番 田 代 回答ありがとうございます。先ほど申し上げましたように、神奈川県の地域防災対策戦略の中で、重点施策の5番として防災訓練があります。特に小学校の地域はそういった拠点となりますので、こういった施設を絶えずそこで訓練を行って、いざというときに仮設トイレの設置、また防災かまどですか、こういったものをしょっちゅう使って、いざ地震が来たときに使えるようにと。そ

のためには令和4年度で学校工事は終わりますけれども、引き続き工事を行っていただきたい。防災に対する補完工事を、今、県の、県単のメニューを小田課長が説明しましたが、国庫と県単、県のセットのメニューもあると思います。そういったものをうまく活用しながら令和5年度以降も行っていただきたいと私は考えますが、町長、これで最後の質問なんで、町長のお考えをお願いいたします。

町長 何をやるにしてもお金がないとできないってことですしね。おっしゃられるとおり、我々が気づかないその補助金のメニューとか、そういったことも多々あるといけないように、常に気を引き締めてやってはいるんですけども、今、田代議員がおっしゃられるような補助金とかをよくよく調べていただきながら、時期は同じ工事の中でタイミングが逸するんであれば、その後でもですね、徐々にやっぱり育てていくというか、成長していく。要はこれ、学校づくりがこれでハード的に完了するような感じですけど、それで済ますというようなことではないこともあると思いますので、今いただいたような提案をいただきながら、少しずつきちっとした格好で、町民の方々の安心・安全な、また長く町民に愛されるような学校づくりをしていきたいというふうに考えています。以上です。

2 番 田 代 回答ありがとうございます。先ほどお話ししたように、防災拠点なんですよ。展示施設ではないわけです。防災の展示施設で、5基だけの下水道マンホールでは有事のときにはできないということで、お金がないのは重々承知していますので、ある程度、完了後もある程度そういった施設の拡充をして、本当に防災拠点となるような施設にしていっていただきたいということを要望いたしましたので質問を終わります。

議 長 以上で受付番号第3号、田代実君の一般質問を終わります。

暫時休憩といたします。休憩中に昼食をとっていただきまして、午後1時より、議会全員協議会、大会議室で行いますので、定刻までにお集まりをください。

なお、議会全員協議会終了後、午後3時より本会議を開催をいたします。
よろしくお願いを申し上げます。 (11時59分)